

主催(公財)千葉県国際交流センター
■令和7年度千葉県地域日本語教育フォーラム■

人間関係作り ～地域日本語支援のはじめの一步～



伊東祐郎
(国際教養大学専門職大学院)
2026.1.15

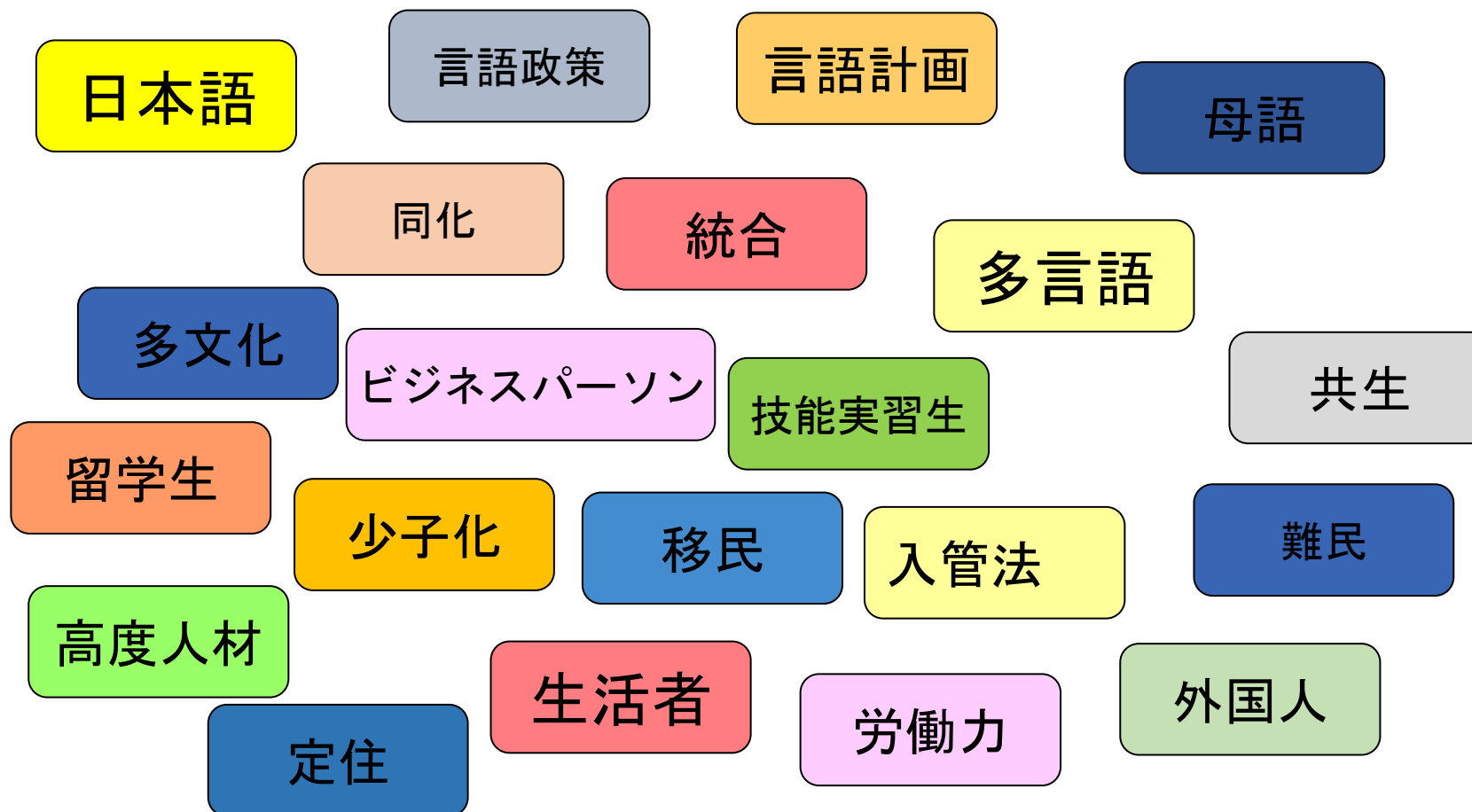
アウトライン

1. グローバル社会で何が起こっているのか
2. 外国人市民とどのように**多文化共生**を目指していくのか
3. **市民活動**はどのように地域づくりに貢献できるのか
4. 地域日本語教育推進における「**日本語学習支援**」の**役割**はどうあるべきか

グローバル社会で何が起こっているのか

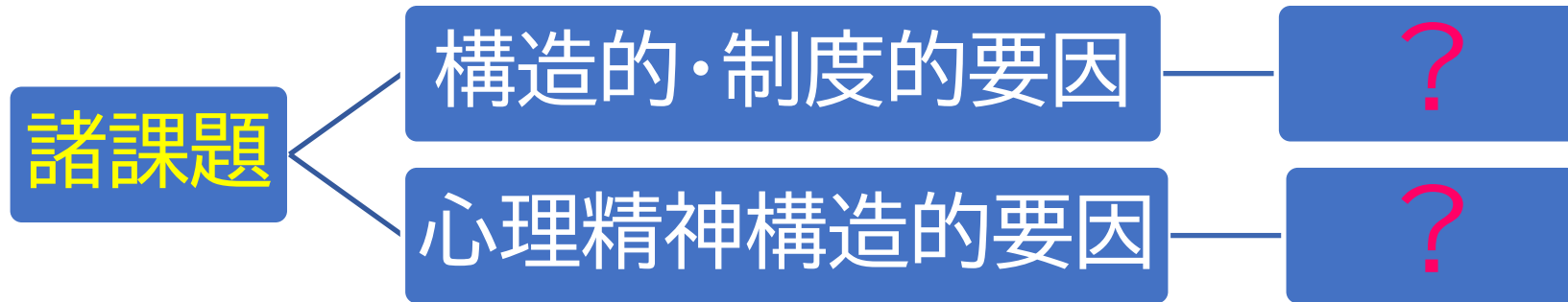
- ① 居住外国人が急激に増加
- ② 外国人が労働力となるだけでなく、生活者として存在
- ③ 定住する外国人を社会の構成員として受入れる必要性の高まり
- ④ 具体的には、生活・労働・教育・福祉等(ライフ)に係わる支援の施策が急務

日本の外国人受入の現状



外国人政策における課題

- ・ 日本流？外国人政策



構造的・制度的要因

- ・ 地域に住む定住外国人：文化庁、自治体、総務省
- ・ 学齢期外国人児童・生徒と大学の一般留学生：文部科学省
- ・ 外国人技能実習生：経済産業省
- ・ 海外の日本語学習者：外務省
- ・ 日系南米人の再雇用対策としての日本語教育：厚生労働省、自治体
- ・ 経済連携協定(EPA)で来日した看護師・介護福祉士候補者に対する日本語教育：経済産業省、外務省、厚生労働省

<異文化接触>心理精神構造的要因

日本人住民	外国人住民
母文化規範・個人規範 × 戸惑い・葛藤・驚き	母文化規範・個人規範 × 戸惑い・葛藤・驚き
異文化・多文化理解 ▽ 調整行動／同化行動	日本文化・多文化理解 ▽ 調整行動／同化行動
多言語・多文化環境への適応 ▽ 価値観の共有	日本文化環境への適応 ▽ 価値観の共有

日本語教育の現状

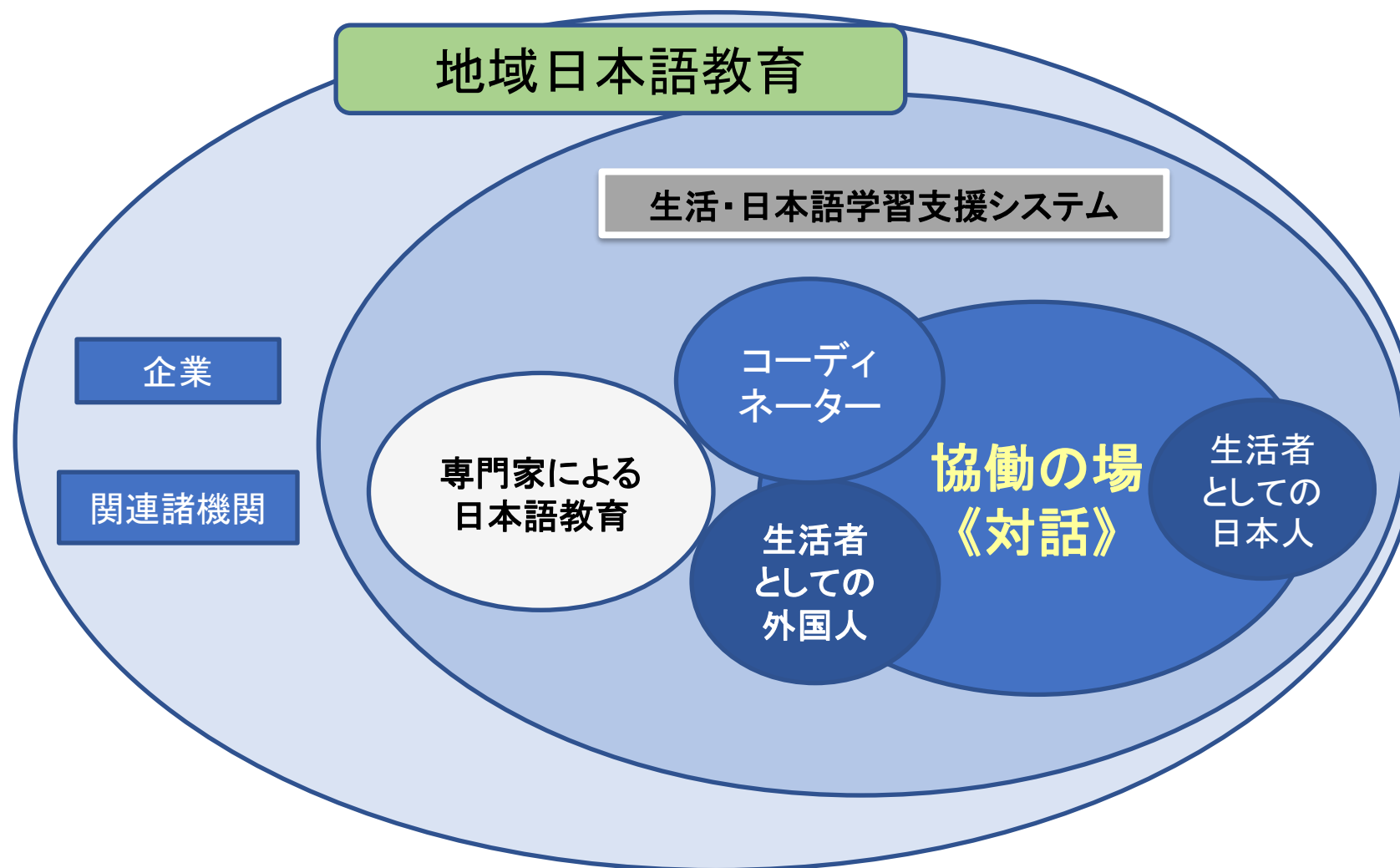
■拡大化と多様化

- ① 学校から地域へ
- ② 教育行政(学校)から複数省庁(他分野)へ
- ③ 学習者の学習機会の増加へ
- ④ 教室環境からIT環境へ
- ⑤ 個別機関から複数機関との連携・協働へ
- ⑥ 職人芸から専門性・実践内容の明示化へ
- ⑦ 教育実践から教育推進へ

日本語学習支援活動の実際

- ・ **だれが**
- ・ 誰に
- ・ **何のために**
- ・ 何を
- ・ **どう**
- ・ 教えるか

地域日本語教育システム



(参考:日本語教育学会編 2008)

そもそも「地域の日本語教室」って何？

- ・ 皆さんにとって、「地域の日本語教室」はどんなところですか。
- ・ 「地域の日本語教室」を形容詞で表現してみると・・・。
- ・ 「生活者としての外国人」にとって「地域の日本語教室」はどんなところだと思いますか。

〇〇人にとっての「日本語教室」とは？

- ・「安心できるところ」
→満足感を感じる、無理をしないでいられる、...
- ・「自分をわかってくれる人がいるところ」
→仲間意識を感じる、連帯感が持てる、...
- ・「人のために何かできるところ」
→やり甲斐・生き甲斐を感じる、達成感が持てる、...

地域日本語教室の役割

- ①「居場所」
- ②「交流」
- ③「地域参加」
- ④「国際交流(文化理解・相互理解)」
- ⑤「日本語学習」

日本語教育の拡大化・多様化

形 態		場面・ 教育様式	対象者
学校型 日本語教育 (教育活動)	狭義の 日本語教育	・教室 ・計画的	・留学生 ・ビジネス パーソン等
地域型 日本語教育 (市民活動)	広義の 日本語教育	・不特定 ・非計画的	・地域住民 ・年少者 ・帰国者等

学校型日本語教育

- ・「教える」「学ぶ」という行為から成立。
- ・ 日本語を学ぶ「学習者」と日本語を教える「教師」で構成。
- ・ 教育の目標は明確。
- ・ 教室には、日本語教育の専門家や、教材・教具が準備されている。



教育目標・カリキュラム・(できる・できない)評価



修了

地域型日本語教室(1)

- ・ 多様な背景とニーズを持つ学習者と日本語学習支援者。
- ・ 日本語を支援する者が、必ずしも日本語教育に関する専門知識を持っているとは限らない。
- ・ 多様な背景や専門知識を有している多彩な人材で構成。
- ・ 日本語を学ぶための教材や活動形態も様々。
- ・ 教育の成果や学習の効果が問われることはほとんどない。
- ・ 日本語学習支援者と外国人は同じ地域に暮らす住民。
- ・ 生活の場がお互いの共存、共生の場となっている。

地域型日本語教室(2)

- ・ 日本語を教えることにとどまらず、地域住民としての「相談」、「支援」や「協力」が必然的に関わってくる場。
- ・ 日本語を学ぶことと異文化の中での「文化理解」「生活適応」が同時に進行する場。
- ・ 日本語学習支援者と外国人との「つながり」や、多文化社会での「ネットワーク」づくりの場。



日本語学習支援者と外国人住民にとっての
交流と相互理解の場、かつ人間関係を形成する場
(関係が続く場、終わりを決めない関係をつくる場)

日本語教育と日本語学習

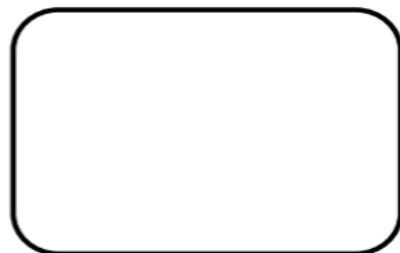
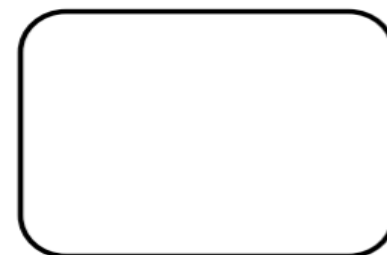
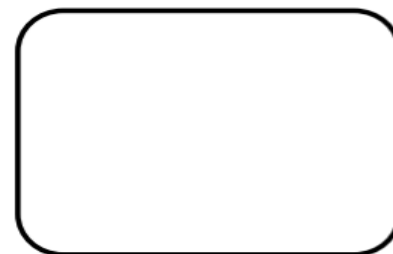
<p>学校型 日本語教室 ↓ 先行シラバス</p>	<p>言語的側面を重視した活動 ↓ 知識注入・伝授型</p>
<p>地域型 日本語教室 ↓ 後行シラバス</p>	<p>内容・課題・話題を重視した活動 ↓ コミュニケーション重視型</p>

《活動例1》

「生活マップ」

生活マップ

年 月 日



「生活マップ」を活用して話し合おう！

- ① いつもどこへ行きますか。
- ② 好きなところはどこですか。
- ③ なぜ好きですか。
- ④ 嫌いなところはどこですか。
- ⑤ なぜ嫌いですか。
- ⑥ その他……

《活動例2》

「Photo Language」
フォトランゲージ

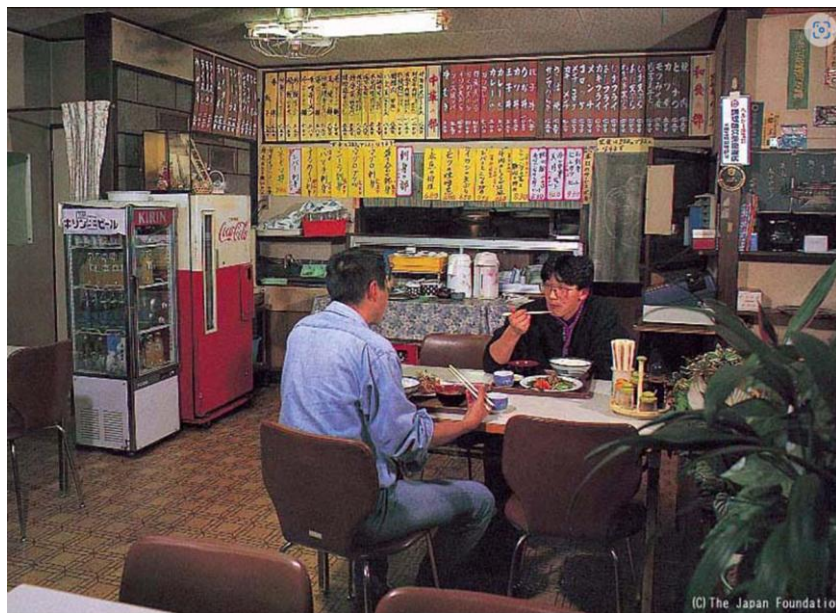
[A]



[B]



[C]



[D]



「フォト」を使って話し合おう！

- ① どの写真が好きですか。
- ② どうしてその写真が好きですか。
- ③ 4枚の写真の中で、あなたが加わりたい写真がありますか。
- ④ どうしてその写真に加わりたいですか。
- ⑤ 4枚の写真をあなたが感じる「**豊かさ**」の順番に並べてください。

人間関係づくりのアプローチ＝「参加型学習」

- ・ 学習者と支援者が共に語り合う
- ・ その中で、その現状・状況・課題を理解・共有する
- ・ また、必要に応じて解決方法を考える



学習者の**学習過程への参加**を促す
学習過程の中での**相互の学び**を重視
学習者の**社会参加**をねらいとする学習法

「参加型学習」を支える言語習得理論

(1) 自律的な学習

- ・ 多様な学びの側面を前提。
- ・ すべての学習者が積極的に学習に参加できる環境を創出。
- ・ 学習者は必要に応じて、自らが学びの機会を活動の中に見出し、自律的に学ぶ。

「参加型学習」を支える言語習得理論

(2) 人間学的な手法

- ・ 学習者の内的側面に注目する。
- ・ 各自の考えや、感情、感動を人間的発達段階の重要な要素として捉える。
- ・ 学習経験、個人の成長やアイデンティティの確立に役に立つと考える。
- ・ 学習が個人的なもので、将来の目標に何らかの関連をもっている

「参加型学習」を支える言語習得理論

(3) 協同言語学習

- ・ 学習は、グループ内の学習者同士による情報交換に基づく。
- ・ 学習者は自分自身の発話に責任を持つ。
- ・ 学習者の動機を高め、ストレスを軽減し、積極的で感動的な教室環境を創造する。

「参加型学習」を支える言語習得理論

(4) 学習者中心の指導法

- ・ 言語を使ったやりとりを増大させる。
- ・ 課題を達成するために、協同で取り組む。
- ・ 参加者相互間で支援したり、助けたり、勇気づけたり、必要な援助をする。

地域日本語教室の役割

- ①「居場所」づくり
- ②「交流」発案
- ③「地域参加」促進
- ④「国際交流」推進
- ⑤「日本語学習」奨励



多文化接触＝多文化交流の最前線

日本人住民	外国人住民
多言語・多文化環境への適応 ▽ 価値観の共有	日本文化環境への適応 ▽ 価値観の共有
寛容性・柔軟性・多文化性の 醸成 ▽ 人間関係構築能力 ＝課題解決能力	寛容性・柔軟性・多文化性の 醸成 ▽ 人間関係構築能力 ＝課題解決能力

日本語教育 **Plus** 開発教育での対応(1)

- ・ 共に生きることのできる公正な社会づくり
- ・ 人間理解と人間関係づくり
- ・ 人間と文化の関係性への理解
- ・ 文化の表現・創造活動への参加



「参加型学習」

日本語教育 **Plus** 開発教育での対応(2)

(1) 日本語学習支援者と外国人住民、相互の**学びの場**
.....「**対等**」「**対話**」➡関係は続いている

(2) 相互の**コミュニケーション活動の場**
.....「**共有**」「**協働**」「**共感**」➡安心できている



自己発信・自己表現・自己実現が可能な空間
「**社会参加が実現できる場(居場所)**」

地域日本語教室が秘めた推進力

- 異文化理解能力(寛容性)
- 異文化間コミュニケーション力(コミュニケーション力)
- 多言語・多文化への適応能力(柔軟性)
- ネットワーキング(情報収集・活用技能)
- 課題解決能力(問題解決・創造技能)



「グローバル社会で生きる人間力」

ご清聴ありがとうございました

